

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	通学路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	優先順位を見極めながら、用地取得を進めていく。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	優先順位を見極めながら、用地取得を進めていく。
②①に基づく取組み結果	市道1号線の用地取得を行った。 市道49号線予備設計委託を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	通学路に指定されている市道	意図(対象をどうするのか)	児童生徒が安全に登下校できるようにする。
②事務事業の概要	児童・生徒が安全に通学できるよう、歩道のない通学路に歩道を整備し、登下校における安全性の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成24年度に実施した緊急合同点検により対策が必要な通学路を抽出し、通学路の拡幅や歩道を確保し登下校時における児童生徒の安全を図る。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果		市道1号線に係る物件調査及び不動産鑑定委託を実施した。 市道1号線用地取得(A=325.3㎡) 市道49号線予備設計委託を実施した。					
②成果を表す指標		指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	学校災害件数の割合	6.0			%	業務取得
	ii	事業費【平成24年度からの累計】	65,863	127,557	195,016	千円	決算書
	iii	工事延長【累計】	115	115	115	m	業務取得
③事務事業のコスト		平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)		61,694	67,459	金額(千円)		内容	153,070
	国支出金(千円)	29,793	29,565	11,113		市道1号線用地取得	75,811
	県支出金(千円)			6,877		市道1号線物件補償	
	市債その他(千円)	21,900	21,800	1,298		市道1号線物件調	58,800
	一般財源(千円)	10,001	16,094	5,228		市道49号線予備設計	18,459

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	道路の拡幅等中長期的な時間を要する要望に対しては、まずは代替的な対策で対応せざるを得ない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	児童・生徒の通学路の安全性を早期に向上させる必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	市道1号線用地取得、市道49号線予備設計	令和元年度事業費の状況(単位;千円)								
②計画に対する事業実績	市道1号線物件調査及び不動産鑑定委託、市道49号線予備設計	計画事業費	116,388	158,134	予算額		決算額			
					当初	45,480	67,459	H30からの繰越	38,023	
						H30⇒R1繰越				41,746
						補正				70,908
③達成状況	未完了									
④未完了・非着手の理由	3月補正分の用地取得に係る業務が年度内に完了しなかったため。									
		令和2年度への繰越額(単位;千円)					70,908			

## 令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	地域排水整備事業	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

## Ⅰ 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	過年度から進めている浸水箇所の整備の進捗を図るとともに、現時点で可能な、最も効果のある場所を選定する。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取り組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

## Ⅱ 事務事業の目的・概要

①目的	対象	地域排水施設	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減
②事務事業の概要	地域排水施設の能力不足や未整備であるものについて、下流への影響を考慮しつつ、河川・水路までの施設整備を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況の変化により、雨水の流出量が増加し、接続する河川・水路の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

## Ⅲ 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果		・鎌ヶ谷二丁目地区(4期)42.5m、(5期)18.1m、初富字林跡地区14.5m、南初富二丁目地区20m、東道野辺五丁目地区181.5mの地域排水整備工事を実施した。 ・雨水浸透柵設置モニター工事にて雨水浸透柵を16基設置した。					
②成果を表す指標		指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	整備工事完了・着手箇所数	21	22	24	箇所	業務取得
	ii	浸水面積(地域排水)	10	10	10	ha	業務取得
	iii	浸透柵設置基数	6,957	7,196	7,265	基	業務取得
③事務事業のコスト		平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)		34,090	130,091	金額(千円)		内容	84,910
	国支出金(千円)	0		18,611		鎌ヶ谷二丁目地区地域排水整備工事(第4期)	
	県支出金(千円)	0		16,720		鎌ヶ谷二丁目地区地域排水整備工事(第5期)	
	市債その他(千円)	18,900	66,000	33,083		東道野辺五丁目地区地域排水整備事業	
	一般財源(千円)	15,190	64,091	997		雨水浸透柵設置モニター工事	

## Ⅳ 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能且つ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、放流先の整備状況や費用対効果を考慮し、事業を進める必要があるため。					

## Ⅴ 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	鎌ヶ谷二丁目、道野辺野辺中央五丁目、東道野辺地区、初富字林跡、南初富二丁目、浸透柵モニター、排水組合補助	令和元年度事業費の状況(単位;千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	鎌ヶ谷二丁目(第4期)(第5期)、初富字林跡、道野辺中央五丁目地区(第3期)、南初富二丁目の地域排水整備工事及び浸透柵モニター工事を完了した。、更に東道野辺地区排水基本設計委託を完了した。	88,650	160,252	当初	88,650	H30からの繰越	70,656
				H30⇒R1繰越	71,899		
				補正		現年分	59,435
③達成状況	未完了	流用・充当	-297				
④未完了・非着手の理由	排水組合補助の繰り越しのため。	令和2年度への繰越額(単位;千円)				8,624	

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	雨水貯留池整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	過年度から進めている貯留池の整備の進捗を図るとともに、現時点で可能な、最も効果のある箇所の選定を行う。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取り組み結果	過年度から進めている貯留池整備について、進捗を図り工事を完了させた。また、現時点で可能な、最も効果のある箇所の選定を行い、今年度より新たな箇所の事業に着手することとした。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	雨水貯留池	意図(対象をどうするのか)	河川の流量の調整を行う 雨水の流出を抑制する
②事務事業の概要	大雨時における流出抑制のための貯留池整備を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる、依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	串崎新田貯留池の用地1902m2購入した。					
②成果を表す指標		指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i	河川調節池の暫定整備率	85.7	87.5	87.5	% 業務取得
	ii	河川調節池の整備率	57.1	57.1	57.1	% 業務取得
	iii	貯留量	40,421	41,521	41,521	m3 業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)	126,968	53,224	金額(千円)	内容		44,074
国支出金(千円)	0	0	50,223	串崎新田貯留池用地購入		0
県支出金(千円)	0	0				0
市債その他(千円)	95,100	37,900				32,600
一般財源(千円)	31,868	15,324				11,474

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能且つ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	放流先の河川整備が進まない中で、浸水被害のデータを基に整備可能且つ効果のある場所を選定しなければならない。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	串崎新田貯留池整備事業	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
②計画に対する事業実績	串崎新田貯留池整備事業用地1902m2を購入した。	計画事業費	予算額		決算額		
			53,684	53,981	当初	53,684	H30からの繰越
					H30⇒R1繰越		
					補正		53,224
③達成状況	完了				流用・充当	297	現年分
④未完了・非着手の理由		令和2年度への繰越額(単位:千円) 0					



令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	河川・水路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	整備時期は未定であるが、整備の目安が付いた段階で、整備方針等の検討を行う。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	整備時期は未定であるが、整備の目安が付いた段階で、整備方針等の検討を行う。
②①に基づく取組み結果	整備の目安がついていないため、整備方針等の検討を行うことができていない。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①主要な水路 ②その他の水路	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流末としての施設の確保及び流下能力の向上等を目的とした暫定改修や、上流域の流末としての機能確保のため、1時間あたり50mmの降雨に対応した改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後、下流の整備が進むと、市域の河川施設について将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	松戸市主体により実施している、紙敷川改修事業において、2年間の継続費設定とした、L=46.7mのうち、令和元年度分L=23.4mの河川改修工事が完了した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 主要な水路の暫定改修実施率	6.5	6.5	6.5	%	業務取得
	ii 主要な水路の50mm/hr改修実施率	2.6	2.6	2.6	%	業務取得
	iii 浸水面積(河川水路)	31.9	31.9	31.9	ha	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)	2,784	3,721	金額(千円)	内容		1,020
国支出金(千円)	0		3,721	令和元年度紙敷川改修事業負担金		0
県支出金(千円)	0					0
市債その他(千円)	0					0
一般財源(千円)	2,784	3,721				1,020

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	下流河川の整備の目安がついていないため、1時間あたり50mmの降雨に対応した整備に取り組めていない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、費用対効果を考慮した暫定改修については実施する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	紙敷川改修負担金	令和元年度事業費の状況(単位;千円)						
		計画事業費	予算額			決算額		
②計画に対する事業実績	紙敷川改修工事(R1)L=23.4m が完成した。	3,836	6,260	当初	3,836	3,721	H30からの 繰越	1,330
				H30⇒R1繰越	2,424			
③達成状況	完了						補正	
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
		令和2年度への繰越額(単位;千円)				0		

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	準用河川整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	下流河川の整備が進んできたことにより、上流側でも将来形の整備を行っていく。また、暫定的な整備を行うしかない箇所では、将来の整備に後戻りの無いよう効果的な手法の検討を行う。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	下流河川の整備が進み、上流域において将来形の整備を実施しているところである。また、浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	準用河川	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流下能力の向上と護岸の保護のための暫定改修や、1時間あたり50mmの降雨に対応した河川の改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。下流側の整備が進んでいる場所もあり、市域の河川整備が可能な場所もある。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	・準用河川二和川バイパス整備(第4期)工事において、L=48.9mを整備した。					
②成果を表す指標		指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i	暫定改修実施率	21.8	21.9	21.9	% 業務取得
	ii	50mm/hr改修実施率	11.4	11.4	11.4	% 業務取得
	iii	浸水面積(1級河川、準用河川)	81.5	81.5	81.5	ha 業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)	366,419	298,396	金額(千円)	内容	533,515	
国支出金(千円)	76,000	64,300	95,040	準用河川二和川バイパス整備(第4期)工事	108,700	
県支出金(千円)	0	0			0	
市債その他(千円)	267,477	210,388			401,611	
一般財源(千円)	22,942	23,708			23,204	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	河川改修は下流から行うのが原則であるため、現時点で最も効果のある箇所を選定し、将来の整備に後戻りの無いよう実施する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	浸水被害により、市民の生命・財産に被害が及ぶ恐れがあるため、速やかに河川改修を行う必要性があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	二和川整備及び二和川護岸改修	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
②計画に対する事業実績	二和川バイパス整備(第4期)工事 L=48.9m完成	計画事業費	予算額		決算額		
			343,952	434,592	当初	321,912	H30からの繰越
					H30⇒R1繰越	105,382	
					補正	7,298	298,396
③達成状況	未完了				流用・充当		
④未完了・非着手の理由	二和川護岸改修工事が未施工であるため。						
		令和2年度への繰越額(単位:千円)		131,848			

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	一般市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業効果の高い一般市道を選定し、効率的に工事を実施する。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	事業効果の高い一般市道を選定し、効率的に工事を実施する。
②①に基づく取り組み結果	市道4335号線の冠水対策のため排水整備工事を発注した。市道2107号線の道路予備設計を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	一般市道	意図(対象をどうするのか)	安全でゆとりのある道路に整備する。
②事務事業の概要	道路排水施設の整備、舗装新設、狭あい路線の拡幅を行い地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	生活道路となる一般道路が未整備で、舗装整備や道路排水整備の必要があります。住民の生活環境が向上するよう本事業を推進する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果		市道3308号線、市道2901号及び市道4335号線排水整備工事を実施した。 市道2107号線予備設計委託(L=700m)					
②成果を表す指標		指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	工事延長	128	-	189	m	業務取得
	ii	工事延長【平成23年度から累計】	3,371	3,371	3560	m	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	-	65.7	-	%	市民意識調査
③事務事業のコスト		平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)		4,752	30,434	金額(千円)		内容	37,597
	国支出金(千円)			4,514		市道4335号線排水整備工事	
	県支出金(千円)			5,687		市道2107号線予備設計委託	
	市債その他(千円)		15,600	2,860		市道2901号線排水整備工事	31,000
	一般財源(千円)	4,752	14,834	10,074		市道3308号線排水整備工事	6,597

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	道路排水施設の未整備箇所、舗装の不良箇所が多い。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げるため、一般市道の整備は不可欠である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画		排水整備、予備設計	令和元年度事業費の状況(単位;千円)								
			計画事業費		予算額		決算額				
②計画に対する事業実績		排水整備、予備設計	37,215	53,079	当初	37,215	30,433	H30からの繰越	15,988		
					H30⇒R1繰越	16,037					
③達成状況		未完了						補正		現年分	14,445
								流用・充当	-173		
④未完了・非着手の理由		市道2107号線用地測量委託及び市道3691号線排水整備工事をR2年度に繰越したため	令和2年度への繰越額(単位;千円)				4,015				

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	交差点改良事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	交差点の安全性を早期に向上させるため、工事予定箇所の早期発注を行う。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	交差点の安全性を早期に向上させるため、工事予定箇所の早期発注を行う。
②①に基づく取り組み結果	市道3・4号線及び市道26号線交差点改良工事を実施した。市道5・1512号線用地測量、境界立会を実施した。市道22号線交差点改良事業に伴う用地購入等を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要市道の交差点	意図(対象をどうするのか)	交差点の改良による安全性の向上・交通渋滞の緩和
②事務事業の概要	安全で快適な道路網整備のため、主要な交差点の右折車線、歩道の整備、交差点形状の改良を行い交通渋滞の緩和、交差点付近の安全性の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	視界が悪く、歩行者が横断待ちするためのスペースの無い危険な交差点や、自動車交通量の増加に伴い、渋滞が発生している交差点がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果		市道26号線及び市道3・4号線交差点改良工事を実施した。市道5・1512号線用地測量、境界立会を実施した。市道22号線交差点改良事業に伴う用地購入等を行った。					
②成果を表す指標		指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	工事実施箇所(累計)	5	5	7	箇所	業務取得
	ii	「道路の状況」不満足度	—	65.7	—	%	市民意識調査
	iii						
③事務事業のコスト		平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)		15,919	41,488	金額(千円)		内容	74,312
	国支出金(千円)		14,082	3,116		市道26号線交差点改良工事	33,338
	県支出金(千円)			11,102		市道3・4号線交差点改良工事	
	市債その他(千円)		10,300	18,598		市道22号線交差点用地購入	33,900
	一般財源(千円)	15,919	17,106	5,423		市道22号線交差点物件補償	7,074

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	幅員が狭く見通しの悪い市道の交差点が多い。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	交差点改良の要望が多く、市民の安全のため早期に交差点改良を行う必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	交差点改良工事、物件調査委託	令和元年度事業費の状況(単位;千円)						
②計画に対する事業実績	交差点改良工事、物件調査委託	計画事業費	予算額			決算額		
		40,500	52,020	当初	40,500	41,488	H30からの繰越	11,218
				H30⇒R1繰越	11,303			
				補正			現年分	30,270
③達成状況	未完了	流用・充当	217					
④未完了・非着手の理由	市道22号線交差点改良事業において物件移転に関し時間を要しているため	令和2年度への繰越額(単位;千円)				10,299		



令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	私道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	広報等により広く市民に周知していく。申請のあった私道整備工事を早期に発注し利用者の利便性を向上させる。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	申請のあった私道整備工事を早期に発注し利用者の利便性を向上させる。
②①に基づく取り組み結果	ホームページの内容、申請書を更新した。早期に発注し第2四半期中に整備を完了した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	私道	意図(対象をどうするのか)	舗装整備工事、舗装補修工事を行う。
②事務事業の概要	未舗装私道の舗装及び舗装済み私道の補修を推進し、地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	事業開始当初は多くの私道が未舗装で日々の生活や環境・衛生面に悪影響を及ぼしていたが、本事業の推進により未舗装区間が少なくなってきた。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果		舗装整備工事を実施した。 整備工事(L=140m)					
②成果を表す指標		指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	工事延長	308	14	140	m	業務取得
	ii	工事延長【平成23年度から累計】	1,561	1,575	1715	m	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	—	65.7	—	%	市民意識調査
③事務事業のコスト		平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)		627	3,070	金額(千円)		内容	11,240
	国支出金(千円)			3,070		舗装整備工事	
	県支出金(千円)						
	市債その他(千円)						
	一般財源(千円)	627	3,070				11,240

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	私道舗装整備要綱の見直しを図り、補修工事についても実施することになったことから、この制度を広く市民に周知すること。					
②評価	i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	2普通	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	公共性の高い私道もあることから、事業を進めていく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	私道組合(舗装整備工事、舗装補修工事)	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
②計画に対する事業実績	私道組合(舗装整備工事、舗装補修工事)	計画事業費	予算額		決算額		
			3,070	当初	3,900	3,070	H30からの繰越
				H30⇒R1繰越			0
				補正			現年分
③達成状況	完了			流用・充当			3,070
④未完了・非着手の理由		令和2年度への繰越額(単位:千円)					
		0					



令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	主要市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	国の交付金を活用し、用地取得済個所については簡易舗装を行い、歩行者空間を確保する。事業債活用のため、市道修繕調査を実施し、修繕計画を策定する。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	国の交付金を活用し事業を進めるとともに、用地取得済個所については簡易舗装を行い、歩行者空間を確保する。事業債活用のため、市道修繕調査を実施し、修繕計画を策定する。
②①に基づく取組み結果	社会資本整備総合交付金を活用し、用地取得、土質調査、舗装改良工事、市道修繕調査を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要市道	意図(対象をどうするのか)	測量、設計、用地補償、工事を行う。
②事務事業の概要	安全で快適な道路網整備のため、主要市道における歩道の整備、危険箇所の線形改良、排水整備、舗装改良を実施し、歩行者等の安全と交通の円滑化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	事業開始前は、主要市道でも歩道が無く交通量に見合った幅員や舗装となっていなかった。住民の要望が満足となるよう本事業を推進する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果		主要市道の舗装改良、土質調査及び用地取得を実施した。 市道28号線舗装改良工事(L=180m)、市道5号線舗装改良工事(L=63m)、軽井沢周回道路Ⅱ期土質調査、用地取得(A=934㎡)、市道22号線用地取得(A=19㎡)、市道26号線用地取得(A=32㎡)					
②成果を表す指標		指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	工事延長	622	583	243	m	業務取得
	ii	工事延長【平成23年度から累計】	7,416	7,999	8,242	m	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	-	65.7	-	%	市民意識調査
③事務事業のコスト		平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)		85,501	108,182	金額(千円)		内容	214,886
	国支出金(千円)	36,866	46,604	16,374		市道28号線舗装改良工事	98,350
	県支出金(千円)			11,598		軽井沢用地購入費	
	市債その他(千円)	32,800	41,900	5,702		市道2230号線土質調査委託	89,000
	一般財源(千円)	15,835	19,678	9,460		市道2230号線土質解析業務委託	27,536

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市の主要な道路でも、歩道が無い箇所や狭い箇所が多く、交通量に見合った幅員や舗装構成になっていない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げるため、主要市道の整備は不可欠である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	舗装改良工事、軽井沢周回道路第2期整備事業、用地取得	令和元年度事業費の状況(単位;千円)							
②計画に対する事業実績	舗装改良工事、軽井沢周回道路第2期整備事業、用地取得	計画事業費	212,926	225,481	予算額		決算額		
					108,181	当初	196,726	H30からの繰越	12,599
						H30⇒R1繰越	12,599		
						補正	16,200		
③達成状況	未完了								
④未完了・非着手の理由	3月補正分の用地取得に係る業務及び詳細設計が年度内に完了しなかったため。				流用・充当	-44	現年分	95,582	
		令和2年度への繰越額(単位;千円)			22,193				

令和2年度 鎌ケ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新鎌ケ谷西側地区都市計画道路整備事業	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業推進のため、より多くの交付金を活用できるよう、関係機関との連携強化を図る。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	事業推進のため、より多くの交付金を活用できるよう、関係機関との連携強化を図る。
②①に基づく取組み結果	交付金を活用し、物件補償を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・3・16号線、都市計画道路3・4・10号線	意図(対象をどうするのか)	用地取得を行う。
②事務事業の概要	当該都市計画道路の整備により、新鎌ケ谷地区内に発生する集中交通を円滑に処理する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新鎌ケ谷特定土地区画整理事業により交通の発生集中が生じていることから、平成25年度から本事業を開始した。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果		物件補償及び物件調査を実施した。					
②成果を表す指標		指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	—	65.7	—	%	市民意識調査
③事務事業のコスト		平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)		51,922	87,467	金額(千円)		内容	179,947
	国支出金(千円)	24,034	42,149	59,873		物件補償費	79,853
	県支出金(千円)			4,464		物件調査委託	
	市債その他(千円)	21,600	37,500	1,087		不動産鑑定委託	71,300
	一般財源(千円)	6,288	7,818	20,655		用地購入費	28,794

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	当該都市計画道路は東西にアクセスする道路がないため、早期に事業を進めていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市内中心部の交通を円滑に処理し、道路利用者の安全性や利便性の向上を早急に図る必要性があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	用地取得	令和元年度事業費の状況(単位;千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	用地取得、物件調査	100,000	155,234	当初	100,000	87,467	H30からの繰越	53,135
				H30⇒R1繰越	55,234			
③達成状況	未完了						補正	
④未完了・非着手の理由	用地取得に係る業務が年度内に完了しなかったため							
		令和2年度への繰越額(単位;千円)				59,065		

令和2年度 鎌ケ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	都市計画道路3・4・5号船橋我孫子バイパス線整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室 道路河川整備課				
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長 松岡 秀樹				

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	用地に関する情報について、千葉県と情報共有を図りながら、効率的に用地取得を進める。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	用地に関する情報について、千葉県と情報共有を図りながら、効率的に用地取得を進める。
②①に基づく取組み結果	事業主体である千葉県と連携を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・5号線	意図(対象をどうするのか)	整備することで交通の利便性を向上させる。
②事務事業の概要	県道船橋我孫子線のバイパスとしての都市計画道路であり、市域東側の主動線を確保し、県が事業主体となり事業を施行する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	南初富区間から新鎌ケ谷地区まで供用開始したことにより、県道船橋我孫子線のバイパスとしての機能を発揮することが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果		用地取得に係る物件調査委託を実施した。 用地取得(A=60㎡)					
②成果を表す指標		指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	—	65.7	—	%	市民意識調査
③事務事業のコスト		平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)		7,146	7,053	金額(千円)		内容	4,694
	国支出金(千円)			7,053		市町村負担金	
	県支出金(千円)						
	市債その他(千円)	3,000	1,800				1,600
	一般財源(千円)	4,146	5,253				3,094

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	境界が未確定の箇所があり、確定させる必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	機能的な道路ネットワークの構築や利用者の利便性・安全性の向上を図るべく道路の完成を目指す必要性があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	地元負担金	令和元年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額			決算額		
②計画に対する事業実績	地元負担金支出	1,000	12,028	当初	1,000	7,053	H30からの繰越	3,318
				H30⇒R1繰越	3,643			
③達成状況	未完了						補正	
④未完了・非着手の理由	事業主体である千葉県が繰越したため			流用・充当	7,385			
		令和2年度への繰越額(単位:千円)					3,694	

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新京成線連続立体交差事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	全線高架化に向け、関係機関との調整を密にしながら事業を進める。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	早期に周辺整備工事に着工できるよう仮線撤去工事を進める。
②①に基づく取り組み結果	全線高架化した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	新京成線高架橋	意図(対象をどうするのか)	関係機関と調整し、高架を実現させる(地元負担金を支払う)。
②事務事業の概要	本市の東西を走る新京成線を高架化し、踏切遮断による交通渋滞や市街地の分断等を解消する目的で、県が事業主体となり事業を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	旧踏切、仮線などがあり、市街地が分断されていることから生活環境や利便性の向上のため早期に周辺整備工事を行う必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	全線高架化に向け、高架橋、駅舎、軌道、電気工事を実施した。					
②成果を表す指標		指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i	用地取得率(取得済/用地面積)	100	100	100	業務取得
	ii	事業進捗率(事業費ベース)	78	86	89	業務取得
	iii					
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)	529,124	399,272	金額(千円)	内容		437,031
国支出金(千円)			398,633	県事業への負担		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)	488,400	354,700				340,600
一般財源(千円)	40,725	44,572				96,431

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	旧踏切、仮線等があり、市街地が分断されている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市街地の分断解消に向け、早期完成が必要であるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画		負担金		令和元年度事業費の状況(単位;千円)					
				計画事業費		予算額		決算額	
②計画に対する事業実績		県に負担金を支出した。		399,519	691,763	当初	400,519	H30からの繰越	247,459
						H30⇒R1繰越	291,244		
③達成状況		未完了				補正			
④未完了・非着手の理由		事業主体である千葉県が繰越したため。				流用・充当		現年分	151,813
				令和2年度への繰越額(単位;千円)				224,302	